

第 11 回 尻別川減災対策協議会
第 7 回 尻別川流域治水協議会 議事概要

日 時：令和 7 年 2 月 1 9 日（水） 1 0：0 0 ～ 1 2：0 0

会 場：ニセコ町民センター

参加者

構成員：別添 出席者名簿のとおり

有識者：北海道大学大学院工学研究院 山田朋人教授

<議事内容>

1. 減災対策、流域治水のこれまでの取組について
2. 各機関の取組報告について
3. 講話及び意見交換について
4. 情報提供について

<主な意見等>

1. 減災対策、流域治水のこれまでの取組について
規約の変更について、承認された。
意見等なし
2. 各機関の取組報告について
意見等なし
3. 講話及び意見交換について

蘭越町：

融雪災害やゲリラ豪雨による災害などのリスクが非常に高い地域であるという一方、現在は災害が少ない状況になっており、災害に対する認識が薄く、自分事にとらえられていない。

役場の対策本部の訓練はもとより、企業等も含めた訓練を通じて、災害に対する認識を現状よりさらに高めながら自分事としてとらえていくような訓練が今後とも必要。

また、水位予測については、現在何時間先までの予測が確認できるかというのを改めて確認したい。

ニセコ町：

水位予測について、昨今の AI の活用などをふまえ、科学技術的にどこまで進んでいるのか伺いたい。

真狩村：

真狩村に流れている知来別川が令和4年に24年ぶりに氾濫した事を踏まえても、最近の気候変動による降雨量の増大については認識している。

村でも比較的災害が少なく、必ずしも積極的に防災訓練を行えてはいないが、ネットワークで連携した防災訓練を行うにはどのようなことから進めるのが有効かご教授願いたい。

喜茂別町：

町内でも昭和56年に災害を経験しており、尻別川関連でも多数の堤防決壊が発生した。河川の特長上、中州や流木が引き金になり繰り返し被災することがあるため、近年災害は少なくなっているものの、町として過去の災害の記憶を風化させないように、訓練などを通して意識を高めていきたい。

京極町：

北海道による釜場整備などの内水対策の結果、氾濫のリスクが減ってきていることに感謝している。

特に上流の伊達市大滝区で降った雨に管内の水位が影響を受けることもあることから、気象台等、各機関と協力しながら減災対策を進めていきたい。

倶知安町：

ニセコリゾートの開発や高速道路、新幹線などの高速交通ネットワークの進捗をきっかけに、統合型・公開型のGISの導入を推進したいと考えている。

そういった地理情報システムを防災行動にも有効活用していくためのアドバイスなどがあれば伺いたい。

札幌管区気象台：

災害の自分事化の意識醸成のため、気象台では「気象防災ワークショップ」を実施しており、最近では、別地域で災害を引き起こした気象条件をその地域に当てはめた場合を想定したワークショップを展開している。

陸上自衛隊倶知安駐屯地：

自衛隊でも災害をテーマにした訓練を実施しているが、その訓練においても、紹介あった共創型訓練のように地域に特化し、ネットワーク化したものを取り入れていけば、よりリアルに訓練が実施できるものと感じている。

後志森林管理署：

国有林でも森林整備等により山の治水を進めているところであるが、気候変動によるシミュレーションの結果から山の保水力も限られてくるものと思われる。今後はそれぞれの森林による保水力の効果も見極めながら、整備を進めていく必要がある。

北海道電力（株）倶知安水力センター：

今後も引き続き、貴重な水資源を有効活用し健全に発電に利用する一方、減災対策においても支障にならないよう、努めていきたい。

山田教授：

災害の発生が少ない地域の中で、どう危機感を高めていくかといことは難しいことではあるが、過去の台風や豪雨の発生場所がもし変化していたら、どのような災害が発生する恐れがあったか、といったことも発信する必要があると考える。

過去に起こった災害だけで議論するのではなく、地域にとって一番弱点となるような降雨パターンがやってきたときに、地域がどういう影響があるかということについて、ストーリー性を持って説明していくことが効果的である。

気候変動を踏まえた予測では、これからよりリードタイムが確保できない状況に向かっていくため、より上流の状況を見ていかななくてはならない。AI そのものは様々な利活用が進んでいるが、物理的な予測や推定とあわせてAI を予測に活用している川もある。

現在進めている気候変動コンソーシアムの中で、効果的な防災訓練について類似事例などを紹介・議論していき、今後こういった訓練をしていくべきなのか提示していければと考えている。

研究開発の中でも地理情報の最大限利活用は重要かつ大きなテーマである。また、地理情報は3DVRシアターなど水害リスクコミュニケーションを実践する上でも、非常に効果が高いツールになり得ると考えている。

事務局：

水位予測の詳細については、後日あらためて説明をしたい。

4. 情報提供について
意見等なし